

P245

海老原克介・鐘ヶ江良彦・植松清次

Ebihara,Y.,Kanegae,Y.,Uematsu,S.

和文タイトル

湿地性カラー疫病の発病に及ぼす温度の影響

英文タイトル

Effect of temperature on disease severity of *Phytophthora*(訂正→*Phytophthora*) root rot of calla lily.

湿地性カラー(*Zantedeschia aethiopica*)の疫病抵抗性育種法を確立するため、発病に及ぼす温度の影響を検討した。カラー疫病菌 *Phytophthora ricardiae* (訂正→*Phytophthora richardiae*)'CH08ZA2'菌株を用い、アサ種子で培養後、雨水中で遊走子のうを形成させて罹病性品種'チルドシアーナ'に接種したところ、5～25℃の 5 段階のいずれの温度においても明瞭な病徴が認められ、10、15℃において激しく発病した。一方、遊走子のう未形成の接種源を用いた場合、15、20℃で発病したが 25℃では明瞭な病徴が認められなかった。以上より、本病の感染・発病に対して温度はさほど影響しないが、遊走子のうの形成は 25℃以上の温度で抑制されることが示唆された。そこで、遊走子のう形成に及ぼす温度の影響を調査したところ、多数の遊走子のうが形成されるまでの日数は、10、15℃では 4 日であったが、20、25℃では 24 日を要した上、形成された遊走子のうも小型で充実していないものが多かった。以上から、疫病抵抗性検定は 10～15℃の範囲内で実施することが望ましいと考えられた。

千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所

Southern Prefectural Horticulture Institute, Chiba Prefectural Agriculture and Forestry Research Center

*千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

Plant Protection Station, Chiba Prefectural Agriculture and Forestry Research Center